



創立150周年 実行委員会だより

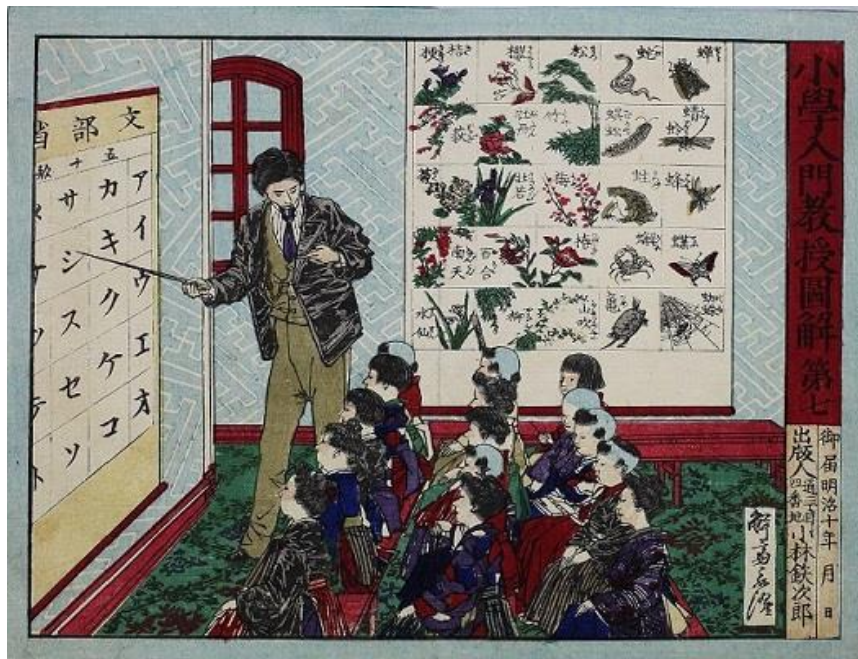
令和5年4月6日 第6号

昭島市立成隣小学校
周年実行委員会
実行委員長 榎本成夫
副委員長 猪狩正博
学校長 松川靖弘
事務局長 神宮正和

【問い合わせ】成隣小学校 副校長 神宮正和 ☎ 042-541-0068

成隣小学校の歴史【創成期】

成隣小学校の開校記念日は10月8日。今年、成隣小学校は創立150周年を迎える歴史ある小学校です。校長室には、歴史を物語るたくさんの資料が眠っています。「実行委員会だより」では、その資料を整理しつつ、保護者・地域の皆さんに歴史を紹介してまいります。



「小学入門教授図解
(明治10年出版)」

図は、明治初期の授業風景として教科書や資料集で紹介されている浮世絵です。明治5年8月に学制が公布され、公教育が全国に広がりました。江戸から明治へと移り、文明開化・近代国家建設の時運とともに、成隣小学校は開校しました。

成隣小学校 沿革史(一部)

年号	年・月	おもなできごと
明治	6. 5	本校の起源は大神村の中村半左衛門氏邸に設けられた私塾「執中舎」に始まり、明治5年の学制発布とともに公立学校設置の議起こる。
	7	大神村観音寺を借りて校舎にあて「執中学舎」と称す
	9. 3	中神村福巖寺に分校設置「共明学校」と称す
		執中、共明の二校合同し、宮沢村阿弥陀寺を仮校舎にあて「成隣学校」と称す
	23. 6	大神村観音寺を再び仮校舎にあてる
	25. 4	小学校令が施行され、「成隣尋常小学校」と称す
	26. 10/8	近代的校舎が新築落成（現在の開校記念日）
36. 6	首席訓導 佐藤勝次 初代校長に就任	

校長室の金庫に残る「学校沿革史」、「60周年記念誌」「70周年記念誌」「100周年記念誌」に記されている創成期の様子をたどると、成隣小学校の前身は、「執中学舎」という私塾に始まります。その後、明治6年5月(1873年)に「執中学舎」として大神村観音寺を借りて校舎としたのを「成隣学校ノ基」と記してありますから、この年から数えて創立150周年となります。

「成隣学校」と命名されたのは、明治9年3月。当時「執中学舎」の学校后見職であった窪素堂先生によるものです。漢詩より引用したもので、「一石を池水に投ずれば波紋生ず。今ここに一校を成す、教化必ず四隣に及ばん。」(池に一つ石を投げれば波紋が広がるように、この学校での教育が必ず周辺の地域に広がっていく)という公教育への思いが込められています。

その後、小学校令が施行され「成隣尋常小学校」となり、校舎が新築落成したのが、明治26年10月8日。現在の開校記念日はこの日となっています。明治9年から約20年間、仮校舎で学び、念願の校舎が落成したのですから、当時は連日多くの方々が参観に来校されたそうです。

写真はその頃の記念写真と明治43年の卒業記念写真です。大きな硝子窓による採光と換気の工夫がなされた校舎であることがうかがえます。教室の照明に電灯は使われていない頃ですから、洋風建築を取り入れた時代の先端を行く校舎だったと思われます。 文責 校長 松川靖弘



写真:「創立百周年記念誌(昭和48年/1973年発行)」より